



都心の一角の公園内に建てられた碑

【豊島・豊上・遠藤正行記】
高層オフィスビルやマンションなどが立ち並ぶ都心の一角に東池袋中央公園があり、その隅には「永久平和を願う」と刻まれた『平和の碑』が建てられています。

我が街の
記念碑
58
モノコメント
有楽町線
東池袋駅
徒歩6分



世界大戦の戦争犯罪人として極東軍事裁判にて死刑が確定した東条英機をはじめとするA級戦犯7人、B級戦犯の52人を収容し、昭和23年12月23日に死刑が執行された場所として有名です。

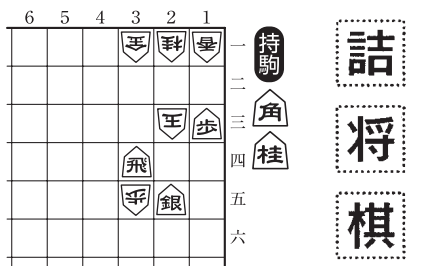
悲劇繰り返さないで 公園の片隅で平和を願う

この集鳴 拘置所は関東大震災による被害を受け、移設されるなどして、昭和46年に完全に解体され、その跡地に東池袋中央公園とサンシティが建設されました。

毎年、平和行進では、この記念碑のある東池袋中央公園で集会を行っています。しかし、建立当時は平和を願う記念碑をこのような場所に建てるべきではないと反対した市民も多くいたそうです。

この記念碑の裏面には「第二次世界大戦後、東京市谷において東京国際軍事裁判所が課した刑及び他の連合国戦争犯罪法廷が課した一部の刑が、この地で執行された。戦争による悲劇を再びくりかえさないため、この地を前述の遺跡とし、この碑を建立する」と記されています。

今は決して平和とは言えません。ウクライナでは戦争により多くの市民が命を落とし、北朝鮮からのミサイルも頻繁に日本側へ向けて発射されています。どうすれば戦争による悲劇を繰り返さずにすむのか、考えるだけでなく小さな署名からでも行動していきたいです。



詰将棋

チヨット一服(1072)

「PKを外すことができるのは、PKを蹴る勇氣を持つ者だけだ」。

これはイタリアサッカー界の至宝、元代表10番のロベルト・バジジョの言葉とされる。さすがファンタジスタ。プレー同様、言葉も華麗だ。アメリカ開催のW杯で、ロ

彼女は、94歳の時に校長を説得して地元の小学校に入學。世界中の少女たちの手本になることをめざし、「教育は永久に心と頭に残る。そして自らが進む道を導く光になる」と語っていた。

忘れえぬこと

独立を支援してくれた 会社の皆様に感謝

設備 三品 稔

私は、東北の田舎町に生まれ、学校を卒業後、見知らぬ東京に出て働きだしました。何年も経たないうちに仕事で手に大けがをしてしまい、まだ若い時だけに苦勞の連続でした。何回となく仕事も変え、アルバイトで現在の仕事

は、同級生たちと翌週に控えた期末試験の準備をしたが、胸部の合併症を発症し、先月16日にケニアの自宅で亡くなった。享年99歳。助産師として働いていた

彼女は、94歳の時に校長を説得して地元の小学校に入學。世界中の少女たちの手本になることをめざし、「教育は永久に心と頭に残る。そして自らが進む道を導く光になる」と語っていた。

てやっていました。社員の方に「これからはメンテナンスだけでは仕事が少ない」と教わり、工事のやり方等、何も知らない私に手取り足取り教えてくださり、何とか仕事ができるようになり、現在に至っています。

あの時、あの会社の方たちがいなければ、今の私も、この仕事もしていないと思います。社長はじめ、社員の皆様に心より感謝をしています。

感謝の印として10年間は単価が安からうが、恩返しのためで頑張りました。

今は息子に跡を継いでもらい、長い間苦勞を掛けてきた妻と子、社員たちに感謝しています。

この先、何年現場に出て仕事ができるかわかりませんが、この年になっても仕事をさせていただける事に感謝しています。(江戸川)

最高齢小学生

「世界最高齢の小学生」であるプリシラ・ステナイ



白金猿II

白井 聡 紀茂 佐世
金平 猿田

何ができるのかを考えさせられる1冊

2章では、核兵器禁止条約に批准できない日本、トランプ大統領が対日米軍への防衛費負担4倍の発言時の日本政府の対応など、誰もが分かるように書かれている。

3・4章はそうした状況下での日本の政治についてさらに深く展開がされている。この間の情勢を振り返り、今の日本をみる事ができる1冊だと思う。(かもがわ出版・1700円＋税)

【本部・中宿稔記】白井聡氏(政治学者)・金平茂紀氏(ジャーナリスト)・猿田佐世氏(弁護士)の鼎談(ていだん)を収めた白金猿の2冊目、2021年2月から3月に行なわれた鼎談をまとめたもの。

この頃はコロナ禍2年目、東京では緊急事態宣言が3月下旬まで出され、菅首相が自民党大会に向けて改憲手続きを定める国民投票法改正案の早期成立をめざしていた。その情勢下での話なので、現在の情勢や自公政権について何をめざしているのか、改めて腑に落ちる内容となっている。

話は、安倍前首相から菅首相への継承劇(1章)、対米従属(2章)、コロナ禍で何が変わり変わらなかったのか(3章)、日本の構造的転

換の契機はあるのか(4章)にまとめられている。1章では、安倍首相の退陣劇もさることながら、日本財団が日、英、印、韓など9カ国を対象に行なった「18歳意識調査」から見る日本の若者と政治についてが興味深かった。その「無社会世界観」とする現状、日本における国民主権、民主主義を一人の国民として、また労働組合の運動に置き換えて何ができるのかをあらためて考えさせられた。

2章では、核兵器禁止条約に批准できない日本、トランプ大統領が対日米軍への防衛費負担4倍の発言時の日本政府の対応など、誰もが分かるように書かれている。

3・4章はそうした状況下での日本の政治についてさらに深く展開がされている。この間の情勢を振り返り、今の日本をみる事ができる1冊だと思う。(かもがわ出版・1700円＋税)

